

造る運びとなりました。「炭生館」でもごみを炭にしまして、最後までごみをお役に立てようということなんです。その炭は、製鉄所でコークスといっしょに混ぜて燃料として使われているわけです。もちろん炭にするまでの過程で金属などは取り除くようになっていきます。また、処理しているごみの量は年々増えていきます。ごみを分別して活かせるものは活かそうと進めていますので、市民の皆さんには、分類などほたいへんだと思いますが、「3つのR」を行ってほしいと思います。まずリデュース(Reduce)。これは出すごみを量を減らしてもらうこと。それからリユース(Reuse)。使えるものは修理して使うということ。そしてリサイクル(Recycle)。再資源化できるものは資源ごみとして出す。このようなことに今、一生懸命取り組んでいますので、市民の皆さんにも普段からごみを出さないよう実際に協力していただきたいと思っています。

ほかの2人は「炭生館」に行ったことはありますか？

藤城・横山
まだありません。

ぜひ見学に行ってもらいたいと思います。森さん、以上で質問はよろし

いですか？

森
はい、ありがとうございます。

「3つのR」、皆さん覚えましたが。リデュース・リユース・リサイクル。続いては、クラスで汐川について学習してきた藤城さんから質問をお願いします。

藤城

私たちのクラスでは、汐川や間伐などについて学習し、10月には実際に汐川の見学に行き、市役所の方のお話を聞きました。そのときに私が生まれたころは汐川の水質は全国ワースト1位だったけど、現在は全国ワースト4位まで改善されたと聞きました。何が原因でそこまで悪い水質になってしまったのですか？

市長

ワースト1はびっくりしましたね。本当にみんなびっくりしました。汐川は大きな川ではありません。いわゆる水量があつて流れる川ではありませんので、薄める(希釈する)能力が弱いんですね。水量が少ないものですから汚濁の濃度が上がってしまうんですね。そのほか原因はですね、その当時下水も一部完成してなかったことや畜産がたいへん盛んな地域であること、まちの中にも一

部工場があることなども影響しているかもしれないですね。見た目にはそんなに汚い川ではありませんが、いずれにせよ全国ワースト1ということになってしまったわけですので、

水質を良くしていきたい。要するにみんなで気をつけなければいけないということですね。一般の方にも、「ごみなどを捨てないで河川をきれいにしましょう」といった運動を起こしました。市の方も、予算をたくさんつけまして下水の普及を一生懸命やったり、畜産農家の方にも浄化槽の設置に補助金を出したりするなど、皆さんで取り組んでワースト1は返上しました。

藤城

これから市民の方にも行ってほしいことはありますか？

市長

今水質の話が出ましたが、河川の



もりともみ
森友美さん

田原中学校3年生

市長さんは対話後もいろいろ楽しい話をしてくれて、とても優しい人だと思いました。4月から高校生になるので、勉強も運動も今以上にがんばってきたいです。

行き着くところは海です。田原市は閉鎖的な海、三河湾を持っていますので、これ以上水質を悪くしないようにと思っています。もちろん市の方では、これからも引き続き排水対策を行っていきます。下水のつくりにくい所には合併浄化槽をつくり、それに対して補助金を出して対策を行っていききたいと思っています。

藤城

合併して環境に対する取り組みは変わりましたか？

市長

田原市は、合併して日本一の農地帯となります。こうしたことで肥料や消毒などのいろいろな環境問題が出てきます。河川だけでなく、ごみの問題、大気汚染など、入りやすい所から皆さんといっしょに環境問題の改善に取り組んでいきたいと思っています。